小特集

多文化共生社会を目指して

近年、鹿児島で暮らす外国人が急増しており、日本人と外国人が共に幸せに生活できる「多文化共生社会」をつくることが求められています。

今回は、多文化共生社会の実現を目指した県や地域のさまざまな取り組みをご紹介します。

屋上テラス

交流ラウンジ

※かごしま国際交流センターは、国際社会に貢献する人材の育成や国際相互理解の促進のための拠点として鹿児島市にオープンした施設。留学生の住居や多目的ホール、研修室などを備えています。本県出身で京セラ株式会社創業者の稲盛和夫さんからの寄付金を元に建設されました。

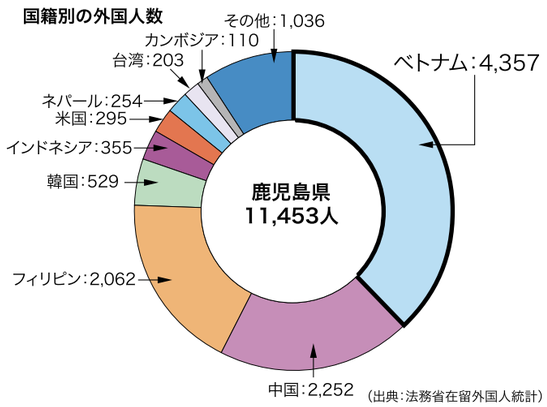
多文化共生社会とは？

多文化共生社会とは、「国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていける社会」です。

日本人と異なる言語・文化・習慣を持つ外国人と地域住民が共生していくには住民一人一人が、相互理解を深めていくことが重要であり、そのためには、多言語による分かりやすい情報提供や生活相談への対応、日本語学習への支援、異文化理解・交流の促進に取り組んでいく必要があります。

近年、日本で暮らす外国人が増加！

国際化の進展や人手不足に伴う外国人技能実習生の受け入れなどにより、外国人は年々増えています。鹿児島には約１万人（令和元年６月時点）の外国人が暮らしており、その約９割がアジア地域の出身者で、国籍別ではベトナムが最も多くなっています。



多文化共生を目指した県や地域の取り組み

イベントブースで地域の方と交流（県国際交流協会）

地域の方に国際交流への関心を高めてもらうため、国際交流員や留学生が協力して県内各地のイベントで国際交流ブースを出展しています。

第47回MBC夏祭りの様子

中国ならではの文化に触れる「中国おりがみ体験」

国際色豊かなスタッフが対応

モデル地区における日本語・日本理解講座を開催（県国際交流協会）

日本語を学ぶ外国人と、それをサポートする地域住民が交流しながら日本語学習を行いました。参加された外国人の方は、スーパーのチラシなどを使って、日常で必要な日本語を楽しく学びました。

外国人を温かく迎える地域づくり（NPO法人そお文化村）

曽於市では、NPO法人そお文化村と地元の方が協力して「国際交流フェスティバル」を開催しています。和服の着付けやお茶などの体験や食事会を通して、地域の外国人の方と地元の方が交流を深めています。

NPO法人そお文化村　理事長
児玉　勝雄さん

外国人雇用主からコミュニケーションに苦労していると相談を受けたことをきっかけに始まった取り組みで、皆さんが楽しく過ごす様子にとてもやりがいを感じています。外国の方を温かく迎える雰囲気が広がるよう、さまざまな地域で取り組みが進めばうれしいです。

外国諸国との交流の歴史

鹿児島は日本の西南部に位置する地理的条件から、歴史的に外国との交流の門戸として重要な役割を果たしてきました。県ではこうしたつながりを生かし、現在もアジア地域を中心に交流を行っています。

8世紀

薩摩半島の南西端にある坊津は、唐の高僧・鑑真和上の上陸地となったほか、中国、東南アジア等との貿易、宗教・文化交流の起点として栄えました。

16世紀

種子島に鉄砲が伝来し、鹿児島に上陸したフランシスコ・ザビエルによってキリスト教がもたらされるなど、日本が西欧文化に初めて出会いました。

幕末

薩摩藩は諸藩に先駆けて近代的工業群「集成館」を造るなど近代化を進めました。また、英国への留学生派遣なども行いました。

豆知識

台湾の発展に尽力した西郷

西郷隆盛と愛加那の長子として生まれた菊次郎は、日本統治時代の台湾・宜蘭県で初代庁長（知事）を務め、公衆衛生の改善や鉄道敷設など、近代化に尽力しました。水害を繰り返していた宜蘭河の治水工事により、水害が根絶され、その恩恵に感激した民衆有志により、菊次郎氏の徳政を称えた石碑が建てられています。

外国人総合相談窓口

外国人の方からの、在留資格や雇用、医療、福祉、出産・子育て、子どもの教育などの生活に関する相談に多言語で対応する相談窓口を設けています。

場所：かごしま県民交流センター1階
TEL：070-7662-4541